

桜の品種紹介

コシノヒガン



キンキマメザクラとエドヒガンの種間雑種と考えられる栽培品種である。ソメイヨシノに似るが、ソメイヨシノよりもやや小型である。

コヒガン



マメザクラとエドヒガンとの種間雑種と考えられる栽培品種である。花期が早く小型である。江戸初期から現在まで広く栽培されている。

オカメ



カンヒザクラとマメザクラから生まれた栽培品種である。小型で早春に咲くことから庭園や公園などに植栽されている。花は下向きに咲く。

桜守活動について

桜守活動とは、地域の方で地域の桜を守るボランティア活動のことで、全国各地で行われています。桜並木を保全していくためには、区民の皆様の参加が大きな力になると考えています。目黒区の桜を将来に伝えていくため、今後、桜守を募集し、清掃活動や桜の継続的な観察、保全活動などを行っていききたいと考えています。

目黒のサクラ保全事業の流れ

樹木診断

樹木医による診断を行い、個々の桜の状態を把握します。
倒木の危険性のある桜については先行して伐採を行い、安全確保を図ります。

サクラ再生 実行計画の作成

桜の保護、植え替えについて地域の皆様と検討を行い、地域に合った計画を作成します。

保全・更新

サクラ再生実行計画に基づき、保護や植え替えを進めていきます。

○目黒のサクラ基金にご協力をお願いします。

サクラ基金はふるさと目黒の桜のある風景を後世に伝えるための基金です。公園等の桜の保護・植え替えなどに活用しています。詳しくは目黒区ホームページをご覧ください。か、みどり土木政策課までお問い合わせください。

<http://www.city.meguro.tokyo.jp/gyosei/zaisei/kifu/kikin/sakurakikin.html>



ふるさとチョイスHP



問い合わせ先 目黒区 都市整備部 みどり土木政策課 施設計画係

〒153-8573 目黒区上目黒二丁目19番15号

電話番号：03-5722-9745 FAX：03-3792-2112



呑川柿の木坂支流緑道・呑川駒沢支流緑道

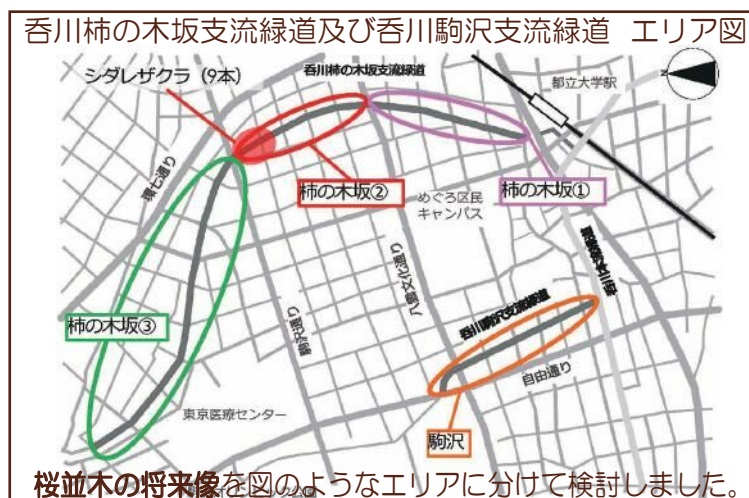
サクラ再生実行計画



緑道のシンボルとなっているソメイヨシノを保全しながら、桜並木の景観を引き継ぐため、コシノヒガンやコヒガンを主体に植え替えていきます。



倒木の危険が生じた樹木については伐採し、周辺環境に合わせてソメイヨシノと雰囲気の似たコシノヒガンやコヒガンを主体に植え替えます。



柿の木坂エリア①：目黒通り～八雲文化通り

- ・コシノヒガン（中型）
- ・コヒガン（中型）

柿の木坂エリア②：八雲文化通り～駒沢通り

- ・コヒガン（中型）
- ・オカメ（小型）
- ・一部シダレザクラ

柿の木坂エリア③：駒沢通り～世田谷区境

- ・ヤマボウシ、ハクモクレン等（小型の落葉樹）
- ・マメザクラ等（小型の桜）

駒沢支流緑道

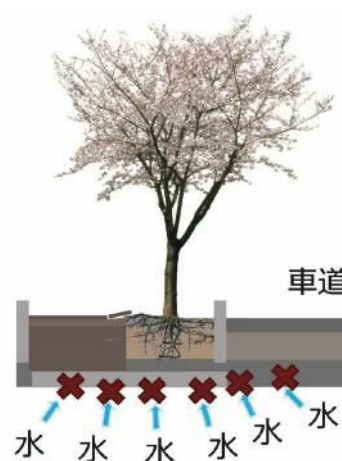
- ・コシノヒガン（中型）

現状の桜（ソメイヨシノ）の課題

現状の緑道は、呑川にコンクリートの蓋をし、その上に盛土をして造られた人工の地盤の上にあります。

このため、土が固まり易く、乾燥し易い土壌となっていることや、生育範囲が非常に狭いので、大きくなるソメイヨシノは根上がりを起こしてしまい、歩きにくい状況になっています。

また、植栽間隔が狭いことと道路や住宅が近いので、枝を十分に伸ばせていない状況です。



- ・桜の老齢化
- ・腐朽菌による材の腐朽
- ・空洞の発生
- ・危険木の植替えが必要



検討会・現地調査会の様子

桜並木の景観を将来に引き継ぐため、3回にわたり検討会を開催しました。呑川柿の木坂支流緑道及び駒沢支流緑道の桜並木について、皆さまとワークショップ等により意見交換を行い、将来像について検討しました。

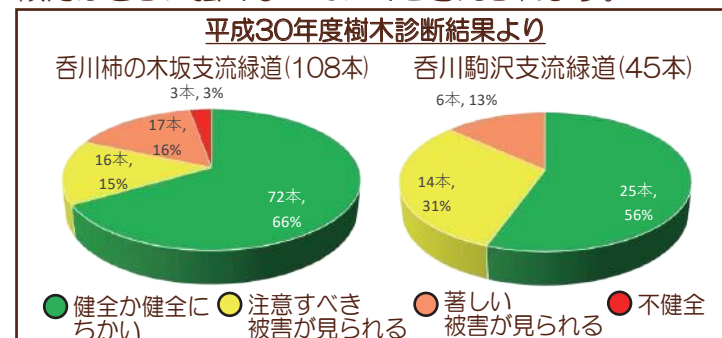
また、地域の皆さまと桜の保全を考えるため、現地調査会を開催しました。呑川本流緑道から柿の木坂支流緑道を実際に歩いて桜の現状や問題点について確認し、施肥作業等を体験していただきました。



緑道の現状

植栽後40年以上経っていますが、全体的に良好な状態が保たれていると考えられます。

しかし、土壌が狭く浅く固いため、大きくなるソメイヨシノは根を伸ばすことが出来ず、樹勢が不良となったり幹や大枝が腐朽している樹木もあり、今後その傾向はさらに強くなっていくと考えられます。



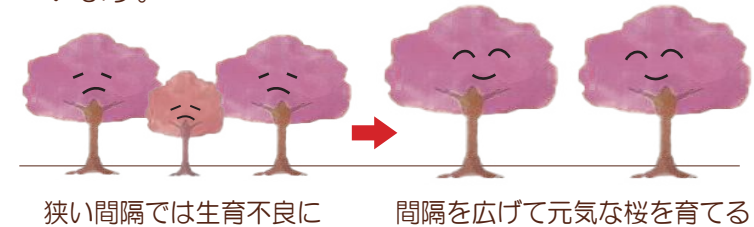
桜並木の再生に向けて

①適切な植栽間隔の確保

現在は植栽間隔が近く、枝を伸ばせる空間が狭いため隣同士の枝が接しています。

また、今後樹勢の衰え等により桜を伐採した場合、同じ場所に補植しても両側の桜の日陰になり、成長できません。

伐採した場合にはすぐ同じ場所に補植せず、植栽間隔が8～10mになるように調整しながら植え替えを行います。



②土壌基盤の対策

- ・舗装に影響を与えないよう防根シートを設置します。
- ・酸素管を設置し、酸素を供給することで、根系の生育方向を深い方向へ誘導します。
- ・桜の周囲に穴を掘り施肥することで、肥料分、水、空気を供給し根系の伸長を促進します。

③保全管理対策

日常的な維持管理やサクラ基金による更新・保全に加え、住民の方々と協働で「桜守活動」を行い、サクラ再生実行計画に取り組みたいと考えています。

④根元の保護

桜の根元が裸地化したところは、根を保護するため、低木や地被植物などを植栽して人が立ち入らないようにします。